

# 文芸

## 俳句

縄文の恵み受け継ぎ青田波 池田 逸子  
 岩走る白き飛沫や青紅葉 伊藤 敬子  
 御無沙汰や先祖に詫びし墓掃除 今関満喜子  
 静かな夜耳をすませば秋隣 魚地 照子  
 いつしかに茂りに消へし拙の道 江森 悦子  
 空一パイ頭揃えし雲の峰 大谷 武彦  
 合歡の花曾孫の電話まだつづく 川島 孝夫  
 一竿の白輝やけり雲の峰 川島 通則  
 老樂の昔語りや半夏生 向後 寛  
 雲の峰杖の威力を知る段差 越川 福子  
 愛用の毛筆走る夏便り 小松 藤男  
 無人駅降りて遙けし青田波 佐瀬 輝夫  
 何事も容れて余生や茄子料理 宍倉 道子  
 黄昏の自然な芸術雲の峰 鈴木とし子  
 遠き日の思い出沸す雲の峰 鈴木 利子

葉を返す風にたゆたふ蓮の花 玉虫 栗扇  
 炎天下球児は夢にまっしぐら 土屋美枝子  
 画用紙に納まりきれず雲の峰 土屋 義昭  
 一日一日励みて迎ふ盃蘭盆会 戸村 静華  
 雲の峰波と触れ合う水平線 西崎さち子  
 何ごととも中庸がよし水中花 早川 勇

## 短歌

老い進む脳の活性促進に 手習歌詠み嗜み暮るゝ 伊藤 定男  
 捨て切れぬ農にしあれば古希迎え 越川 義則  
 「原爆忌」終戦記念日「いつまでも 昭和が暮れてゆかない八月 高梨 キヨ  
 もくもくと生きるが如く雲の峰 青空白く染めあげてゆく 土屋 好  
 口蹄疫伝染病とは言い乍ら 罪なき牛を殺す惨さよ 鈴木 益郎  
 .....  
 梅雨晴れの空はキャンパス西空は 名画のやうに夕日輝く 八角 三枝

主七き猫の親子が我が家を 住家となして居握りそめぬ 吉岡 信子  
 「おばあちゃんこれ美味しいよ」と女の孫は バイキング料理運びつづける 佐瀬 初音  
 夕暮にポトリと落ちる夏椿 朝に開きその日散りゆく 鈴木まさ子  
 「美味しいか」と聞けば幼はコックリと 黙したるまま西瓜食みみつ 押尾 輝子  
 木洩日のきらめく頭上椽の実は 三連音符の様に連らなる 西山満里子  
 水遣りを欠くに忽ち珊瑚花 葉を垂らしるつ見るも哀れに 青木 秀子  
 ラベンダーをきりミガラスに多に掛け キッチンほのと香り漂ふ 田崎 尚美

夕方の蓮田を渡る風ありて うす紅の荅を揺らす 芹川 初子  
 赤十字有功会の総会に 昔の友は少なくなりぬ 平山 芳子  
 難聴の治りし吾は今日夫と オークストラのコンサートに未ぬ 島田ますみ  
 カトレアの腋芽育つて了七年後 花咲きくるると青年は笑む 齊藤つね子



## 長倉の馬頭観音

大総新道を坂田から走って、取立入口の看板がある所を右の小道に曲がって少し行くと、銚子連絡道路をくぐる手前の右側に、まことに小さな石仏が半ば埋もれるように北を向いて立っています。あまり目立たないので、少し過ぎて向きを変えると、すぐに石仏の存在が分かります。

この石仏をよく見ると、合掌した仏様が馬に乗っている姿に彫られています。これは馬頭観音と呼ばれる仏様で、もともと古代インドの神様で、怒りの形相を表しているところから、明王に入れられることもあり、それは強い力をもつて、悪や煩惱などを排除する観音で、馬頭と名づくところから、動物をも救済すると言われ、特に馬の病を防ぐといわれました。

長倉の馬頭観音の石仏は、高さ53cm、幅28cmの砂岩製



長倉の馬頭観音